7.1.5 生態系

1) ノグチゲラの人工営巣木の利用状況

ノグチゲラの人工営巣木の利用状況を表 7.1.5-1～表 7.1.5-3 に示した。

平成 30 年度は、G 地区、H 地区に設置した人工営巣木それぞれ 1 基でノグチゲラの可能性のある巣穴が確認された。利用した種は特定できなかったことから、次年度以降の調査において利用状況を注視することとする。

表 7.1.5-1　ノグチゲラの人工営巣木の利用状況(G 地区)

地区	No.	平成29年度	平成30年度			
			3月	4月	5月	6月
G	10	－	△	△	－	－
	11	－	△	－	△	－
	12	－	－	－	－	－
	13	－	－	－	－	－
	14	－	－	－	○※	○※

注 1)「○」は営巣利用、「△」はつつき跡が確認された事を示す。
注 2)「※」人工営巣木に穴があいており、ノグチゲラ又は[redacted]によるものと考えられた。

表 7.1.5-2　ノグチゲラの人工営巣木の利用状況(H 地区)

地区	No.	平成29年度	平成30年度			
			3月	4月	5月	6月
H	6	－	－	－	－	－
	7	－	－	－	－	○※
	8	－	－	－	－	－

注 1)「○」は営巣利用、「△」はつつき跡が確認された事を示す。
注 2)「※」人工営巣木に穴があいており、ノグチゲラ又は[redacted]によるものと考えられた。

表 7.1.5-3　ノグチゲラの人工営巣木の利用状況(N-1 地区)

地区	No.	平成29年度	平成30年度			
			3月	4月	5月	6月
N-1	2	－	－	－	－	－
	4	－	－	－	－	－
	5	－	－	－	－	－

2) ノグチゲラの人工採餌木の利用状況

(1) G 地区

G 地区における人工採餌木の利用状況を表 7.1.5-4 に示した。

平成 30 年度は人工採餌木の設置後 2 年目の調査となった。春季調査における採餌痕の確認は 9 基中 2 基と少なかったが、経時的に採餌痕が増加し、冬季調査では全 9 基で採餌痕が確認された。

表 7.1.5-4　ノグチゲラの人工採餌木の利用状況(G 地区)

地区	No.	平成29年度				平成30年度			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
G	1	－	0	0	0	0	3	11	10
	2	－	0	0	0	0	0	1	2
	3	－	0	0	0	0	1	0	2
	4	－	0	0	0	0	0	1	1
	5	－	0	0	0	0	2	7	5
	6	－	0	0	1	2	2	6	4
	7	－	0	0	0	2	0	3	5
	8	－	0	0	0	0	1	1	1
	9	－	0	0	0	0	0	0	3

注 1)「－」は調査未実施を示す。
注 2) G 地区の人工採餌木は、平成 28 年に設置された。

(2) H 地区

H 地区における人工採餌木の利用状況を表 7.1.5-5 に示した。

平成 30 年度は人工採餌木の設置後 2 年目の調査となった。春季調査における採餌痕の確認は 9 基中 6 基であったが、経時的に採餌痕が増加し冬季調査では全 9 基で採餌痕が確認された。採餌痕の数も最多で 20 ヶ所に及び、同時期に設置した G 地区、N-1 地区と比較して利用状況は良好であった。

表 7.1.5-5　ノグチゲラの人工採餌木の利用状況(H 地区)

地区	No.	平成29年度				平成30年度			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
H	1	－	0	0	0	0	0	0	9
	2	－	0	0	0	0	0	0	1
	3	－	0	0	2	1	2	9	4
	4	－	0	0	5	15	14	12	12
	5	－	0	0	6	13	16	17	19
	6	－	0	0	0	0	0	0	1
	7	－	0	0	1	1	0	4	4
	8	－	0	0	1	4	2	3	16
	9	－	0	0	1	1	7	10	20

注 1)「－」は調査未実施を示す。
注 2) H 地区の人工採餌木は、平成 28 年に設置された。

(3) N-1 地区

N-1 地区における人工採餌木の利用状況を表 7.1.5-6 に示した。

平成 30 年度は人工採餌木の設置後 2 年目の調査となった。春季調査では全 10 基で採餌痕は確認されなかったが、徐々に利用が確認され、冬季調査では 10 基中 6 基で採餌痕が確認されたことから、ノグチゲラによる採餌利用が始まった段階と考えられた。

表 7.1.5-6　ノグチゲラの人工採餌木の利用状況(N-1 地区)

地区	No.	平成29年度				平成30年度			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
N-1	1	－	0	0	0	0	0	0	0
	2	－	0	0	0	0	0	0	0
	3	－	0	0	0	0	0	0	4
	4	－	0	0	0	0	0	0	1
	5	－	0	0	0	0	0	0	1
	6	－	0	0	0	0	0	1	1
	7	－	0	0	0	0	0	0	0
	8	－	0	0	0	0	1	1	1
	9	－	0	0	0	0	0	0	0
	10	－	0	0	0	0	0	0	1

注 1)「－」は調査未実施を示す。
注 2) N-1 地区の人工採餌木は、平成 28 年に設置された。

(4) N-4 地区

N-4 地区における人工採餌木の利用状況を表 7.1.5-7 に示した。

平成 30 年度は、設置された No.1～12 の 12 基全てで採餌痕が確認されたが、採餌痕の数は、4～34 と大きな幅があった。設置箇所の日当たりや風通し、湿度等によって腐朽の程度に差異が生じていることが要因と考えられた。

平成 23 年 2 月に設置された No.1～3 の人工採餌木は設置から 7 年が経過し、材によっては原型をとどめないほどに腐朽が進んでいる。内在する生物も少なくなっているものと考えられ、平成 25 年から平成 30 年にわたって採餌に利用されてきたことから、人工採餌木としての役割を果たしたものと考えられる。

なお、N-4 地区の事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-7　ノグチゲラの人工採餌木の利用状況(N-4 地区)

地区	No.	平成25年度				平成26年度				平成27年度				平成28年度	平成29年度				平成30年度			
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
N-4	1	0	8	8	8	11	11	15	17	19	20	25	－	－	11	24	15	9	15	29	－	－
	2	0	2	4	4	7	10	16	22	22	24	27	－	－	12	29	36	10	13	17	－	－
	3	8	8	8	8	14	18	21	23	23	23	24	－	－	6	25	17	8	20	26	－	－
	4	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	0	－	－	5	0	2	3	10	7	－	－
	5	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	0	－	－	30	6	8	8	10	14	－	－
	6	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	0	－	－	15	16	9	18	24	29	－	－
	7	－	－	－	－	－	－	0	1	1	1	1	－	－	5	5	7	8	5	10	－	－
	8	－	－	－	－	－	－	0	0	1	1	4	－	－	10	20	12	15	16	11	－	－
	9	－	－	－	－	－	－	0	1	1	1	1	－	－	28	24	44	40	34	32	－	－
	10	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	0	－	－	5	4	6	3	4	5	－	－
	11	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	0	－	－	11	8	14	8	8	14	－	－
	12	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	0	－	－	8	2	4	7	5	11	－	－

注 1)「－」は調査未実施を示す。
注 2) No.1～3 は平成 23 年 2 月に、No.4～12 は平成 26 年 7 月に設置された。

3) コウモリ類のねぐら利用として巣箱(バットボックス)の利用状況

(1) G 地区

G 地区に設置した巣箱の利用状況を表 7.1.5-8 に示した。

平成 30 年度は、冬季調査において地点 2 №1 の巣箱で 1 個体が確認され、平成 29 年度に続いての利用確認となった。

表 7.1.5-8　コウモリ類の巣箱の利用状況(G 地区)

調査年度	季節/番号	確認状況(平成29年6月設置)									
		地点1					地点2				
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
平成29年度	春季	未実施									
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	冬季	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
平成30年度	春季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	冬季	なし	なし	なし	なし	なし	1	なし	なし	なし	なし

注)平成 29 年度、平成 30 年度の確認は、いずれもによるもの

(2) N-1 地区

N-1 地区に設置した巣箱の利用状況を表 7.1.5-9 に示した。

平成 30 年度は、冬季調査において №1 の巣箱で 4 個体が確認され、平成 29 年度に続いての利用確認となった。

表 7.1.5-9　コウモリ類の巣箱の利用状況(N-1 地区)

調査年度	季節/番号	確認状況(平成29年6月設置)				
		地点1				
		①	②	③	④	⑤
平成29年度	春季	未実施				
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季	なし	なし	なし	なし	なし
	冬季	なし	なし	1	なし	なし
平成30年度	春季	なし	なし	なし	なし	なし
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季	なし	なし	なし	なし	なし
	冬季	4	なし	なし	なし	なし

注)平成 29 年度、平成 30 年度の確認は、いずれもによるもの

(3) N-4 地区

N-4 地区に設置した巣箱の利用状況を表 7.1.5-10 に示した。

N-4 地区では平成 27 年度から設置した巣箱の調査を実施しているが、小型コウモリ類による利用は確認されなかった。当該地区においては、[redacted]など巣箱を利用する小型コウモリ類は生息していないか、低密度であるものと考えられた。

なお、N-4 地区の事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-10　コウモリ類の巣箱(バットボックス)の利用状況（N-4 地区）

調査年度	季節/番号	確認状況(平成26年3月設置)														
		地点1					地点2					地点3				
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
平成27年度	春季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	冬季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
平成27年冬季～平成29年冬季　欠測																
平成29年度	春季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	冬季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
平成30年度	春季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	夏季	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	秋季															
	冬季															

4) 注目種(20 種)の生息・繁殖状況

注目種の生息・繁殖状況について、N-4 地区については平成 25 年度から存在・供用時の調査を開始しているが、平成 27 年度は冬季を除く春～秋季の 3 季調査である、G、H、N-1 の 3 地区では平成 29 年度の春季調査を実施していないなど、調査努力量に若干の相違があるが、調査地区全域を踏査し各種を探索する手法等は同一であることから、評価図書での確認状況から顕著な減少が見られるか、地区内で繁殖が行われているかという点に特に注意して比較を行った。

(1) ノグチゲラ

ノグチゲラの確認状況を表 7.1.5-11～表 7.1.5-14 に示した。

G 地区では、平成 30 年度調査において[ ]ヶ所で営巣が確認された。評価図書の調査においても[ ]ヶ所の営巣が確認されており、生体の確認状況も同程度であったことから、顕著な変化は生じていないものと考えられる。

H 地区では、平成 30 年度調査においてノグチゲラの営巣は確認されなかった。H 地区では評価図書、事後調査を通じてノグチゲラの営巣の確認はないが、平成 30 年度は春季調査で幼鳥が確認されており、周辺で繁殖した可能性がある。生体や採餌痕等の痕跡については評価図書の調査と比較して増加していた。

N-1 地区では、平成 30 年度調査において[ ]ヶ所で営巣が確認され、巣立ち雛も確認されており繁殖状況は良好であった。評価図書の調査では[ ]ヶ所の営巣が確認されており、継続的に生息・繁殖しているものと考えられた。

N-4 地区では、評価図書時の調査では営巣等の繁殖状況は確認されなかったが、平成 25 年度からの事後調査では[ ]巣の営巣が確認されている。平成 30 年度調査においても着陸帯[ ]ヶ所営巣が確認され、巣立ち雛も確認されている。存在・供用時の事後調査では継続的に繁殖が確認されており事業の実施による影響は生じていないものと考えられる。N-4 地区における本種の生息状況は安定しているものと考えられたことから、事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-11　ノグチゲラの確認状況比較(G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
	造巣			
巣跡				
掘りかけ巣				
採餌痕				

表 7.1.5-12　ノグチゲラの確認状況比較(H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
	造巣			
巣跡				
掘りかけ巣				
採餌痕				

表 7.1.5-13　ノグチゲラの確認状況比較(N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
	造巣			
巣跡				
掘りかけ巣				
採餌痕				

表 7.1.5-14　ノグチゲラの確認状況比較(N-4 地区)

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体						
繁殖	営巣						
	家族群						
巣跡							
掘りかけ巣							
採餌痕							

(2) ヤンバルクイナ

ヤンバルクイナの確認状況を表 7.1.5-15～表 7.1.5-18 に示した。

ヤンバルクイナについては、評価図書の調査において巣や雛等といった繁殖の確認はなかった。ヤンバルクイナについては着陸帯を離着陸するヘリの騒音による繁殖活動への影響が考えられるが、平成 30 年度調査では N-1 地区で幼鳥が確認されており、繁殖に成功したものと考えられる。

G 地区では、営巣等の繁殖に係る行動は確認されなかった。生体の確認は[ ]個体であり、評価図書の調査、平成 29 年度調査と比較して増加した。

H 地区では、営巣等の繁殖に係る行動は確認されなかった。生体の確認は[ ]個体であり、評価図書の調査、平成 29 年度調査と比較して増加した。

N-1 地区では、営巣は確認されなかったものの、春季調査において親鳥と行動する幼鳥[ ]個体が確認されており、周辺で繁殖に成功したものと考えられた。生体の確認は[ ]個体であり、評価図書の調査、平成 29 年度調査と比較して増加した。

これら 3 地区については、平成 29 年度はヤンバルクイナの活動が活発になる繁殖期(春季)に調査が実施出来なかった。一方、平成 30 年度は春季を含む 4 季調査を実施しているため、平成 29 年度と比較して各地区において確認状況が増加したものと考えられる。

N-4 地区では、評価図書の調査では[ ]個体、過年度事後調査では[ ]個体が確認されており、変動が大きくなっている。平成 27 年度調査では家族群が確認されており、存在・供用時においても周辺で繁殖していることが確認されている。

表 7.1.5-15　ヤンバルクイナの確認状況比較(G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
	家族群			
足跡				
採餌痕				

表 7.1.5-16　ヤンバルクイナの確認状況比較(H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
	家族群			
足跡				
採餌痕				

表 7.1.5-17　ヤンバルクイナの確認状況比較(N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
	家族群			
足跡				
採餌痕				

表 7.1.5-18　ヤンバルクイナの確認状況比較(N-4 地区)

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体						
繁殖	営巣						
	家族群						
足跡							
採餌痕							

(3) ホントウアカヒゲ

ホントウアカヒゲの確認状況を表 7.1.5-19～表 7.1.5-22 に示した。

G 地区では、平成 30 年度調査において□ヶ所で営巣が確認された。また、平成 30 年に営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されており、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数では評価図書の調査を下回っているものの、生息・繁殖状況に顕著な変化はないものと考えられた。

H 地区では、平成 30 年度調査において□ヶ所で営巣が確認された。また、平成 30 年に営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されており、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数にいても評価図書の調査を上回っている。

N-1 地区では、平成 30 年度調査において□ヶ所で営巣が確認された。また、平成 30 年に営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されており、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数は評価図書の調査と同様であったことから、生息・繁殖状況に顕著な変化はないものと考えられた。

N-4 地区では、平成 30 年度調査において□ヶ所で営巣が確認された。また、平成 30 年に営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されており、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数、繁殖状況はともに評価図書の調査と同程度であり、生息・繁殖状況に顕著な変化はないものと考えられた。N-4 地区における本種の生息状況は安定しているものと考えられたことから、事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-19　ホントウアカヒゲの確認状況比較(G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
巣跡				

表 7.1.5-20　ホントウアカヒゲの確認状況比較(H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
巣跡				

表 7.1.5-21　ホントウアカヒゲの確認状況比較(N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
繁殖	営巣			
巣跡				

表 7.1.5-22　ホントウアカヒゲの確認状況比較(N-4 地区)

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体						
繁殖	営巣						
	家族群						
巣跡							

(4) ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ

ヤンバルホオヒゲコウモリは、評価図書時に生息が確認されていなかった。存在・供用時の事後調査おいても全地区で確認されていないことから、これらの地区で生息している可能性は低いものと考えられる。

リュウキュウテングコウモリの確認状況を表 7.1.5-23～表 7.1.5-24 に示した。

リュウキュウテングコウモリは、評価図書時にはいずれの地区においても確認されなかった。存在・供用時の事後調査では、G 地区で平成 29 年及び平成 30 年調査でそれぞれ□個体、N-1 地区では平成 29 年度調査で□個体、平成 30 年度調査において□個体が確認された。

ヤンバルホオヒゲコウモリ及びリュウキュウテングコウモリは、ねぐらとして樹洞を使用することが知られている。事後調査でのリュウキュウテングコウモリの確認例は、いずれも環境保全措置として設置した巣箱を利用している個体の確認であった。

なお、N-4 地区では上記 2 種に関する確認状況はなく、当該地域においては生息していないものと考えられたことから、事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-23　リュウキュウテングコウモリの確認状況比較(G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			

表 7.1.5-24　リュウキュウテングコウモリの確認状況比較(N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			

(5) オキナワトゲネズミ

オキナワトゲネズミは、評価図書時に生息が確認されていなかった。存在・供用時の事後調査についても G、H、N-1 地区で平成 29 年度、N-4 地区で平成 25 年から平成 29 年度に確認されなかったことから、当該地区で生息している可能性は低いものと考えられる。なお、N-4 地区の事後調査については夏季の調査を以って終了している。

(6) リュウキュウイノシシ

リュウキュウイノシシの確認状況を表 7.1.5-25～表 7.1.5-28 に示した。

G 地区では、平成 30 年度調査で生体□個体が確認された。評価図書の調査でも□個体が確認されており、掘り返しや足跡といった痕跡についても同程度の確認状況であることから、生息状況に顕著な変化はないものと考えられた。

H 地区では、平成 30 年度調査で生体□個体が確認された。評価図書の調査では□個体が確認されており、掘り返しや足跡といった痕跡については評価図書の調査と比較して増加していることから、生息状況は良好であると考えられた。

N-1 地区では、平成 30 年度調査で生体□個体が確認された。評価図書の調査では個体の確認はなく、掘り返しや足跡といった痕跡については評価図書の調査と比較して増加していることから、生息状況は良好であると考えられた。

N-4 地区では、平成 30 年度調査で生体□個体が確認された。評価図書の調査では□個体が確認されており、掘り返しや足跡といった痕跡については評価図書の調査と比較して増加しており、生息状況は良好であると考えられた。N-4 地区における本種の生息状況は安定しているものと考えられたことから、事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-25　リュウキュウイノシシの確認状況比較(G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
	死体			
ヌタ場				
掘り返し				
足跡				
糞				

表 7.1.5-26　リュウキュウイノシシの確認状況比較(H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
ヌタ場				
掘り返し				
足跡				
糞				

表 7.1.5-27　リュウキュウイノシシの確認状況比較(N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
ヌタ場				
掘り返し				
足跡				
糞				

表 7.1.5-28　リュウキュウイノシシの確認状況比較(N-4 地区)

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体						
ヌタ場							
掘り返し							
足跡							
糞							

(7) リュウキュウヤマガメ

リュウキュウヤマガメの確認状況を表 7.1.5-29～表 7.1.5-32 に示した。

G 地区では、平成 30 年度調査で生体[redacted]個体が確認された。評価図書の調査では[redacted]個体が確認されており、確認個体数は少なくなっている。平成 29 年度調査と比較しても少ない確認状況となっていることから、今後も生息状況を注視する必要がある。

H 地区では、平成 30 年度調査で生体[redacted]個体が確認された。評価図書の調査では 17 個体が確認されており、確認個体数は増加している。幼体[redacted]個体も確認されていることから、生息・繁殖状況は良好と考えられる。

N-1 地区では、平成 30 年度調査で生体[redacted]個体が確認された。評価図書の調査では[redacted]個体が確認されており、確認個体数は同程度であった。ただし、評価図書、平成 29 年度に確認されていた幼体の確認はなく、今後も生息状況を注視する必要がある。

N-4 地区では、平成 30 年度調査で生体[redacted]個体が確認された。評価図書の調査では[redacted]個体が確認されており、確認個体数は増加している。平成 25 年度から実施している事後調査では[redacted]個体となっており、評価図書と比較して高い値で推移している。N-4 地区における本種の生息状況は安定しているものと考えられたことから、事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-29　リュウキュウヤマガメの確認状況比較(G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
	死体			
繁殖	幼体			

表 7.1.5-30　リュウキュウヤマガメの確認状況比較(H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
	死体			
繁殖	幼体			

表 7.1.5-31　リュウキュウヤマガメの確認状況比較(N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体			
	死体			
繁殖	幼体			

表 7.1.5-32　リュウキュウヤマガメの確認状況比較(N-4 地区)

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体						
	死体						
繁殖	幼体						

(8) ハブ、ヒメハブ

ハブの確認状況を表 7.1.5-33 に、ヒメハブの確認状況を表 7.1.5-34 示した。

ハブは、評価図書の調査においてG地区で2個体、N-4 地区で1個体確認されている。平成30年度調査ではG地区で3個体(うち幼体1個体)、H地区で5個体、N-1 地区で0個体、N-4 地区で1個体が確認された。G地区、N-1 地区、N-4 地区については評価図書の調査と同様の確認状況、H 地区については評価図書の調査から増加している。各地区で少数ではあるものの継続的に生息しているものと考えられた。

ヒメハブは、評価図書の調査において各地区で生体3～61 個体が確認されている。平成29年度調査では、評価図書と比較してG地区、H地区、N-4 地区で個体数が増加しており、N-1 地区については同程度の確認状況であった。繁殖を示唆する幼体の確認状況については、評価図書ではいずれの地区においても幼体の確認はなかったが、平成30年度調査では各地区で1～5個体が確認されており、繁殖に成功したものと考えられた。

なお、N-4 地区におけるハブ及びヒメハブの生息状況は安定しているものと考えられたことから、事後調査については夏季の調査を以って終了している。

表 7.1.5-33　ハブの確認状況比較

G地区

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体	2	1	2
繁殖	幼体	0	0	1

H地区

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体	0	3	5
繁殖	幼体	0	0	0

N-1地区

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体	0	2	0
繁殖	幼体	0	0	0

N-4地区

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体	1	0	1	0	0	1
繁殖	幼体	0	0	0	0	0	0

表 7.1.5-34　ヒメハブの確認状況比較

G地区

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体	22	36	87
	死体	2	0	0
繁殖	幼体	0	2	1

H地区

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体	12	38	64
	死体	0	0	0
繁殖	幼体	0	4	2

N-1地区

区分/季節		評価図書	H29	H30
個体の確認	生体	61	51	67
	死体	0	0	0
繁殖	幼体	0	4	5

N-4地区

区分/季節		評価図書	H25	H26	H27	H29	H30
個体の確認	生体	3	48	42	34	82	42
	死体	0	0	0	0	0	0
繁殖	幼体	0	3	1	2	3	2